

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 膵切除後新規糖尿病発症に関わる危険因子の単施設後向き研究

研究の目的

最近の手術技術の著しい進歩により、膵臓手術の安全性と治療成績は著しく向上しています。しかし、膵切除に伴う膵機能低下や機能低下による生活の質（QOL）の破綻など、長期的な膵臓手術後合併症は未だ解決されておりません。原疾患が膵切除によって完全切除された場合でも、膵切除後新規糖尿病発症により長期的な治療が必要となったり、糖尿病により引き起こされる原疾患とは別の疾患の治療が必要となったりすることもあります。そのため、膵切除後新規糖尿病発症を手術前から予測することは、予防のための適切な手術計画や、術後の適切な治療方針を立案するために重要です。本研究では、膵切除後新規糖尿病発症危険因子を統計学的に明らかにする計画です。

研究実施期間： 実施許可日 ~ 令和7年 12月31日

対象となる方： 2008年1月1日から2020年12月31日までに、弘前大学医学部附属病院で膵頭十二指腸切除術（幽門輪温存、および垂全胃温存を含む）もしくは膵体尾部切除術をお受けになった患者様のうち、術前に糖尿病と診断されている患者様、また手術後6か月以上の定期診察が行われていない患者様を除いた220名の患者様を対象といたします。

利用させていただきたい試料・情報について

当院のカルテに記録されている情報のうち、性別、年齢、原疾患名、術前血液検査値、術前術後CT画像情報（膵臓の大きさとCT値）、既往歴（糖尿病の有無、その他の治療歴のある疾患名）、手術術式、手術年月日、出血量、手術時間、輸血の有無、術後合併症の詳細、術後血液検査データ、術後糖尿病発症の有無および術後糖尿病発症年月日について、標記研究のために利用します。

具体的には、術前および術後の血液検査値、既往歴、CT情報（膵臓の大きさやCT値）、手術情報（出血量、手術時間、手術術式、輸血の有無）、手術後合併症内容、術後外来通院時の血液検査値、および術後糖尿病発症の有無のデータの各々が、術後糖尿病発症の危険因子となり得るかどうかについて、統計解析的手法を用いて比較いたします。この結果により、膵切除後新規糖尿病発症の危険因子が明らかになり、同病態を予防したり発症を遅らせたりするための方法を明らかにいたします。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則と

してお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座・石戸圭之輔・連絡先：0172-33-5111
-------	---